

2022 年度 帰国隊員支援プロジェクト 実施完了報告書
(協力活動) / 調査・研究)

提出日:2023 年 10 月 31 日

氏名:尾上香織

プロジェクト名称: 在日トンガ人実態調査

実施国:日本(対象国:トンガ)

実施期間:2022 年 10 月 1 日～2023 年 10 月 31 日

1 活動実施内容概要

- ・トンガ本土にてトンガより日本に渡航している方数名のご家族、ラグビー留学者を多く輩出されている高校のラグビーの監督への聞き取り調査を実施。
- ・NPO 法人日本トンガ友好協会(以下「友好協会」)が収集した日本国内のラグビープロチーム在籍者リスト、および人づてに収集したラグビー選手以外の在日トンガ人情報をもとに、在日トンガ人の性別、年齢、身分のリスト化。(現在も随時実施)
- ・駐日トンガ大使館を訪問し、マンギシ大使へ本プロジェクトへの協力を依頼。
- ・友好協会を訪問し、シナリ・ラトゥ協会代表他の方々と協議を行い、在日トンガ人への生活実態等に関するアンケート内容を検討。
- ・日英トンガ語の3言語でアンケートを実施し、在日トンガ人の実態を把握する。
- ・アンケート結果に基づく分析、報告書作成、および以後の活用検討。

2 活動の結果・成果

以下、実施内容ごとに結果・成果を挙げる。

- ・在日トンガ人の性別、年齢、身分の調査とリスト化

→NPO 法人日本トンガ友好協会から得たデータ、およびアンケート結果より、在日トンガ人約100人分のデータを取得。身分＝在留資格。外務省が認知している在日トンガ人179名中(2022年12月現在、法務省在留外国人統計)約半数強で、残り半数弱(引退後のラグビー選手含)の情報取得ができていないことは課題。これまでリスト化されていなかった在日トンガ人をリストアップできたことは成果。

- ・トンガ政府および学校が認知している海外移住者・留学生との照合

→トンガ政府からの情報入手はなく、NPO 法人日本トンガ友好協会、在トンガ日本大使館(外務省)、ならびに多くの留学生を輩出しているトンガの学校からデータを入手。ラグビー以外の留学生情報は今回のアンケート結果によるもの。上記より在日トンガ人の半数のデータ取得となったため、完全に照合することはできなかった。

- ・在日トンガ人への生活実態等に関するアンケートの実施

→有効回答者数は26名。NPO 法人日本トンガ友好協会、トンガ人コミュニティにも協力を依頼。数としては在日者数の15%に留まってしまった。依頼が人づて(口コミ)であったこと、また、あくまでもアンケートで強制はできないため、協力を仰いだトンガ人からもアンケ

ートは強くはお願いできないことから、あまり拡散されなかったことが伸び悩んだ理由として挙げられる。

成果としては、異なる在留資格の方の回答を得ることができた他、直接インタビューを実施したことで、想定外の課題等も知り得ることができた。

・アンケート結果に基づく分析、報告書作成、および以後の活用検討

→報告書(別添「在日トンガ人実態調査最終報告書」)のとおり。今後、駐日トンガ王国大使館、NPO 法人日本トンガ友好協会へ報告書の共有を行い、活用検討の機会を設けていただく。

3 (申請時に)期待された成果と実際の相違点

期待された成果:これまで実態のつかめなかった在日トンガ人の把握により、在日トンガ人のサポートや元スポーツ選手セカンドキャリア支援等を実施する際に大変有益になる。

実際:在日トンガ人のうちごく一部ではあるが、これまで取り立てて聞くことがなかった生活実態や実際に困っている点などについて聞き出せたことで、次のステップにつながるものとなった。

ただ、本調査をもって具体的なサポートやセカンドキャリア支援の方策を検討できるとは言い難く、これを一材料として追求していく必要がある。

期待された成果:リスト化により、これまで把握の難しかった在日トンガ人の統計データの集計や、これから来日するトンガ人への情報提供が容易となる。

実際:元々あったラグビー選手のリストデータに加え、想定以上に留学生のアンケート回答率が高く、その他が少なかったことから、統計データには偏りが生じてしまう結果となった。そもそも在日者の大半がラグビー関係者、留学生ではあるものの、その他の永住者や長期滞在者の方々のデータがそもそも少ないため、今後引き続き集計していく。

期待された成果:万が一災害等が発生した際の安否確認等でも重要になる。

実際:すでにトンガ人コミュニティ内では情報共有等も随時行われていることが分かったが、居住地が全国各地のため、地域ごとでの情報共有や安否把握等にはどこに居住

しているかが少しでも把握できたことで、有事の際早急に確認できる材料となり得る。

期待された成果:トンガと日本間における友好関係の向上にも寄与する。

実際:NPO 法人日本トンガ友好協会、ならびに以前から在日トンガ人コミュニティをけん引してきたタカイ・パレイ氏のもと、トンガと日本間の友好関係は良好に保たれている。今回の調査結果により、これまで双方に聞くことのなかったデータがとれたことで、どうすれば彼らが来日してよかったと思えるのか、あるいは日本に残りたいと思えるのかを知り得たことは、彼らを受け入れるコミュニティ(トンガ人居住地域など)や、日本が彼らのためにどのような活動を行うことが有用かを検討する上で活用できる点だと思われる。

4 活動成果の持続発展性

現段階でのリストが在日トンガ人の半数であることから、あと半数の追求を継続して行い、より当初期待されていた成果が得られるようにする。今回のアンケートで調査を行った内容から、さらに派生した内容についての聞き取りを行うことで、断片的ではなく真の意味での実態を知ることにつながる。また、活用検討については引き続き他者を交えて行い、具体的なサポートやセカンドキャリア支援の方策を検討していく。

5 苦労した点、反省点、本活動を通じて得られたこと、学んだこと、教訓等

- ・現状として、ラグビー選手として活躍しているトンガ人にはアプローチがしやすいが、その他の目的で来日しているトンガ人にはリーチが難しいことが判明。特に個人情報保護の観点から自治体等では情報が得られないこともあり、人づてでの調査となった。

- ・在日トンガ人の絶対数が少数であることから、口コミ等でもなかなかとり着かないことが課題だと感じた。今回のプロジェクトはトンガ人を探すことが目的ではなく、探し出した彼らが実際にどのような生活をしているのかを知り、それを踏まえて今後トンガからの来日者の待遇改善等につなぐ、ということだが、在日トンガ人を探すことで手一杯になってしまったことも否めない。

- ・情報収集時点において、当初トンガ政府からの入手も含めて想定していたが、実際には在トンガ日本大使館、ならびに多くの留学生を輩出している学校の所有するデータの入手の

みで、トンガ政府からの情報入手は、そのようなデータが存在しないためできなかった。

今回の協力活動に情報入手を伴う場合、また入手した情報が調査の基礎となる場合、データ入手可否の事前確認は必須であるにもかかわらずその点の確認を行わないまま活動に入ってしまった点は反省している。こうだろうという見切り発車で物事を進めてしまうことによって、その後実際にそうではなかった場合にそれに対する代償を払う必要が出てくることを肝に銘じて物事に取り組むよう留意したい。

・なお、当初、2023 年 3 月に報告書完成の予定となっていたが、2022 年 10 月で終了するとしていた内容(調査)に時間を要してアンケートの実施や周知の開始が遅れたこと、加えてアンケートは基本的に入づて(口コミ)で周知を図るという手法であり、想定以上に周知に時間を要したことから、アンケート調査の完了までに時間を要してしまった。

アンケートを在日トンガ人へ周知する期間の設定が甘かったこと、および自身のスケジュールとの兼ね合いから、完了報告書提出の遅延に繋がってしまった。

6 ご自身の今後のプラン、及び本活動の活用予定・計画

今回の調査にあたり、新たにつながりをもった方々も多く、ご縁ができたことで次のステップへの可能性を感じている。また、想定していた回答以外にも、直接トンガ人と対話したことで留学生の奨学金制度の問題や転職に対する悩みなど新たな課題も発見でき、重層的に課題を解決する方策検討の必要があると感じた。

一方で想定していた以上に在日トンガ人へのリーチが難しく、個人での調査には限界があることも痛感した。しかしながら、時間をかけることで可能となることもあるため、今後も引き続き地道に在日トンガ人へのリーチを試みるとともに、当初本調査をするに至った背景である問題意識を忘れることなく、課題に対してより具体的な方策を練ることができるよう努めたい。

今回の経験で得た事前想定の徹底や計画性をもって臨むことの大切さは、今後自身が業務を遂行することはもとより、課題解決の取り組み等を実施しようとする際にも活かされると感じている。また、トンガとのつながりという面においては、今後トンガと日本との関係を何らかの形でさらに深めたいと考えている自身にとって今回得られたネットワークが大変な強みとなった。